

NRIだより

2024年3月期 第2四半期
[2023年4月1日～2023年9月30日]

証券コード：4307

CONTENTS

株主の皆様へ	1
決算ハイライト	2
上期トピックス	4
マテリアリティへの取組み	6
NRIプロフェッショナル	7
お知らせ／株主メモ	8



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果により景気は緩やかに回復しています。情報システム投資については、デジタル技術を活用したビジネスプロセス及びビジネスモデルの変革を行うDX(デジタルトランスフォーメーション)を中心に引き続き活況を呈しています。一方、世界的な金融引締め等が続く中で海外景気の下振れが国内景気に及ぼすリスクに加え、急激な為替変動、物価の上昇など先行き不透明な状況が続いており、今後の業績の変調によっては企業投資が絞られる可能性もあります。

このような環境の下、2024年3月期上期の業績は、売上収益、営業利益とも、上期として過去最高を達成しました。こうした結果を受け、上期の決算発表では、今期の業績予想を上方修正しています。また、資本効率向上のための株主還元施策として、2024年3月期の1株当たり配当金を50円へ増配する予定です。

NRIグループは、より一層の事業の拡大に取り組むとともに、中期経営計画に掲げた成長戦略を進め、引き続き持続的な利益成長と株主還元の両立に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年11月
代表取締役会長 兼 社長

此本 臣吾

野村総合研究所

決算ハイライト

決算のポイント

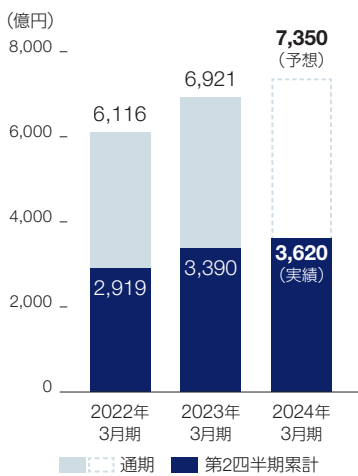
POINT 1 売上収益は、全てのセグメントで増加し、3,620億円(前年同期比6.8%増)となりました。

POINT 2 営業利益は、海外事業の収益性の低下等があったものの、国内事業を中心にコアビジネス領域やDX案件が引き続き好調であったため、588億円(同6.5%増)となり、営業利益率は16.3%となりました。

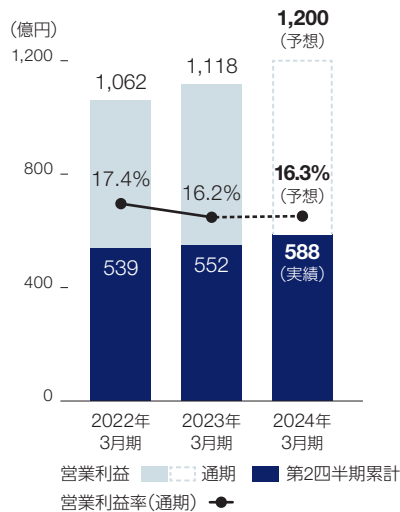
POINT 3 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、376億円(同5.0%増)となりました。

	2023年3月期 第2四半期累計	2024年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率
売上収益	3,390億円	3,620億円	+230億円	+6.8%
営業利益	552億円	588億円	+35億円	+6.5%
営業利益率	16.3%	16.3%	-	△0.0P
親会社の所有者に帰属する四半期利益	358億円	376億円	+18億円	+5.0%
基本的1株当たり四半期利益	60円	64円	+3円	-

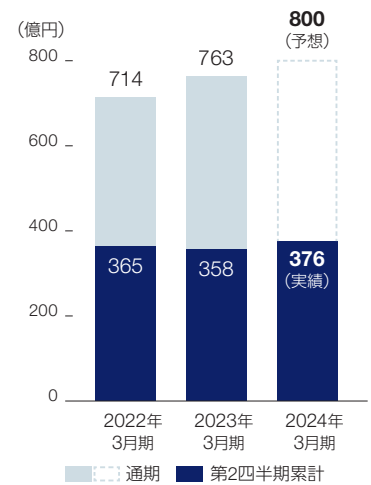
売上収益



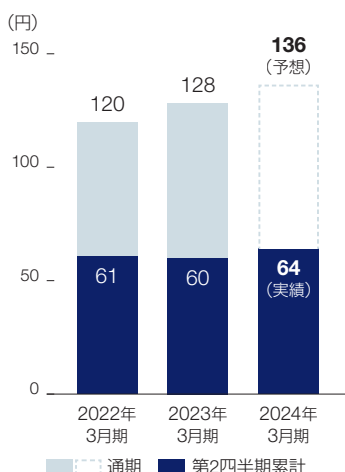
営業利益／営業利益率(通期)



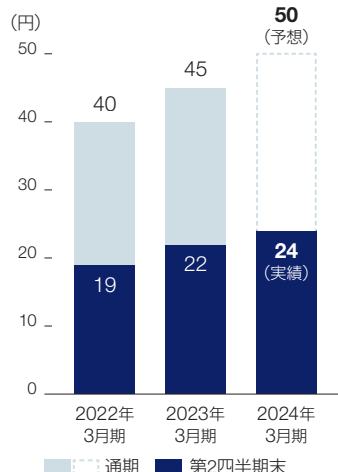
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益



基本的1株当たり四半期(当期)利益



1株当たり配当金



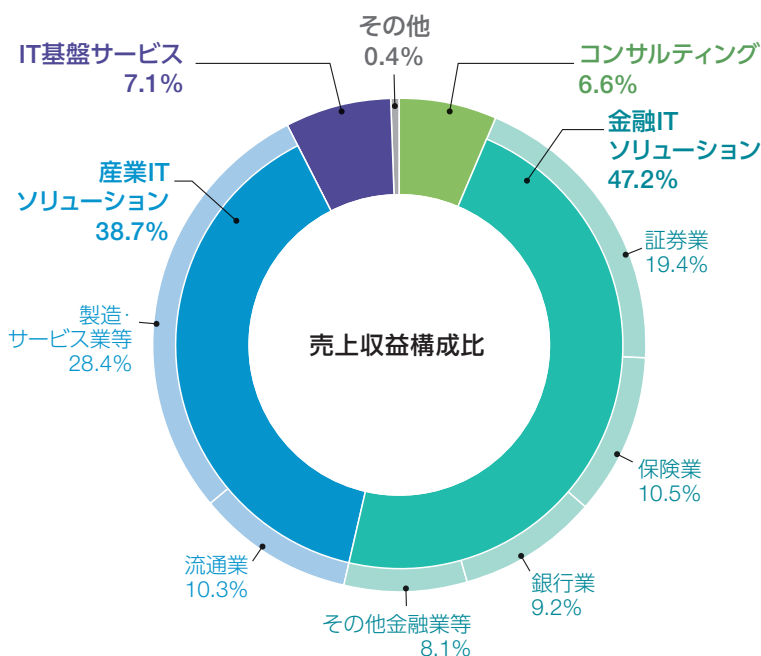
(注) 1. 記載金額は、億円未満(基本的1株当たり四半期(当期)利益及び1株当たり配当金は円未満)を切捨てて表示しています。

2. 2024年3月期通期予想は2023年10月26日に発表したものです。業績予想は当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント業績のポイント

- POINT 1** コンサルティングは、DX関連案件や社会課題解決案件が増加し、売上収益、営業利益ともに増加しました。
- POINT 2** 金融ITソリューションは、銀行業向け開発案件や共同利用型サービスの運用サービスの増加などが寄与し、売上収益、営業利益ともに増加しました。
- POINT 3** 産業ITソリューションは、国内の流通業及びサービス業等向け案件が増加したものの、海外事業の収益性低下や一時費用の発生により増収減益となりました。
- POINT 4** IT基盤サービスは、情報セキュリティ事業やクラウド事業が寄与し、売上収益、営業利益ともに増加しました。

セグメント別外部売上収益(2024年3月期第2四半期累計)



売上収益前年同期比較

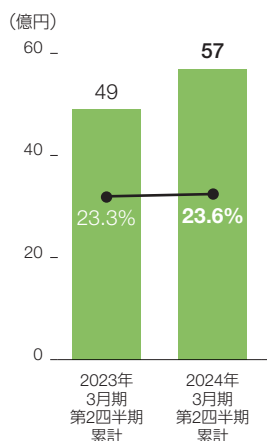
(億円)	2023年3月期 第2四半期累計	2024年3月期 第2四半期累計	前年同期比
コンサルティング	202	237	17.3%
金融ITソリューション	1,618	1,709	5.6%
証券業	695	700	0.7%
保険業	382	381	△0.1%
銀行業	260	332	27.6%
その他金融業等	279	293	5.1%
産業ITソリューション	1,335	1,400	4.9%
流通業	352	371	5.4%
製造・サービス業等	982	1,029	4.7%
IT基盤サービス	223	258	15.7%
その他	11	15	31.6%
合計	3,390	3,620	6.8%

(注) 1.記載金額は、億円未満を切捨てて表示しています。
2.2024年3月期第1四半期にセグメントの区分を一部変更しており、過去数値については当該変更後の区分による数値を表示しています。

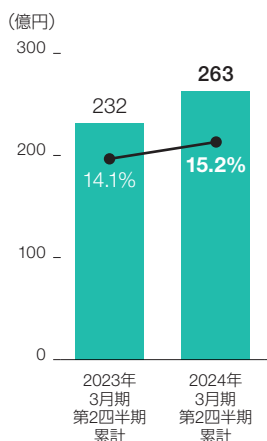
セグメント別損益(2024年3月期第2四半期累計)

営業利益 ■■■ 営業利益率 ●

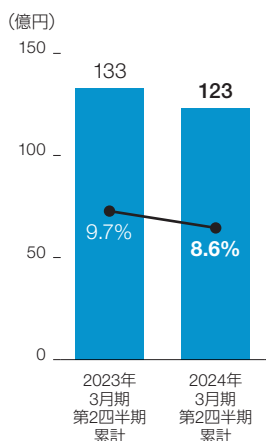
コンサルティング



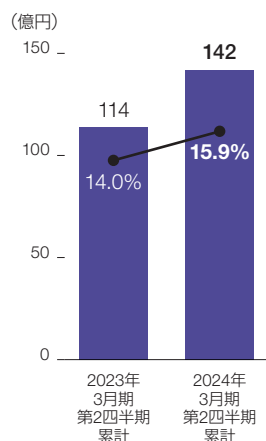
金融ITソリューション



産業ITソリューション



IT基盤サービス



(注) 1.記載金額は、億円未満を切捨てて表示しています。
2.2024年3月期第1四半期にセグメントの区分を一部変更しており、過去数値については当該変更後の区分による数値を表示しています。

生成AIへの取組み

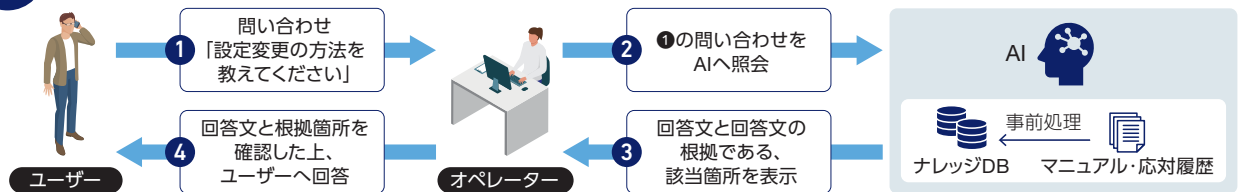
2022年に生成AI「ChatGPT」が公開されて以降、生成AIへの注目が急速に高まっています。NRIでは、すでに複数のお客様と生成AIの活用に向けたプロジェクトを開始し、様々な研究開発を行っています。

マイクロソフトが提供するChatGPTモデルも利用可能な生成系AIサービスを活用し、社内実証実験を開始

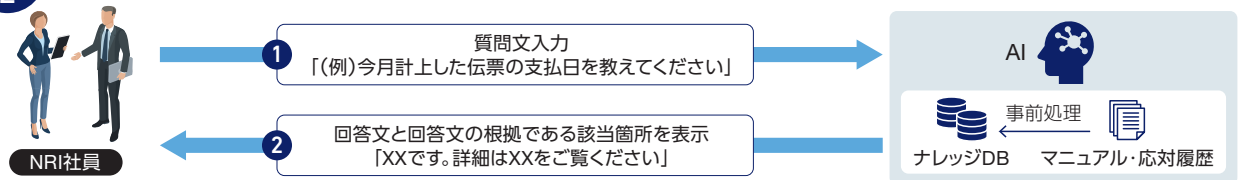
NRIでは、顧客の業務・データ・運用までの業務適用を目指して、顧客業務に特化した生成系AIの活用に関する研究開発を行っており、今回マイクロソフトが提供するChatGPTモデルも利用可能な生成系AIサービス「Azure OpenAI Service」を活用した社内での実証実験を2023年7月に開始しました。本実証実験はNRIが提供するASP[※]サービスのヘルプデスク業務と本社機構（経理業務）へのNRI社員からの照会シーンを対象としています。

※ASP(Application Service Provider)：ビジネス用のアプリケーション・ソフトウェアを、インターネットを介して複数の顧客に提供している事業者、あるいはサービスやビジネスモデルのこと

CASE 1 ASPサービスのヘルプデスク業務



CASE 2 本社機構（経理業務）



今後、NRIは実証実験で得られた知見を活かし、顧客業務への効果的な適用から運用まで一貫した活用支援を目指すとともに、意思決定支援が求められる顧客業務での生成系AIサービスの活用も目指し、安全安心な環境下における生成系AIの研究開発を継続します。

NRIグループは、2019年10月に「NRIグループAI倫理ガイドライン」を策定し、AIの利便性とリスク（情報漏洩や倫理問題等）の双方を考慮しながら、研究開発を実施しています。今後もAIの導入や活用による社会の変化と、AIがもたらす社会課題の解決能力に目を向け、人間がAIを有効かつ適切に活用する未来社会の実現を目指していきます。

「NRI未来創発フォーラム TECH&SOCIETY」を開催

2023年10月30日、「生成AI時代の新たな社会」と題し、オンラインにて「NRI未来創発フォーラム TECH&SOCIETY」を開催しました。

各セッションでは、最前線で活躍するNRIのスペシャリスト3名が登壇し、生成AIの未来を展望しました。また、特別ゲストとして『WIRED』日本版編集長松島倫明氏を迎え、デジタル社会研究室室長森健と対談を行い、AI脅威論やAI限界論をこえて、AIが「常在」する新たな社会像について語り合いました。



『WIRED』日本版編集長松島倫明氏を迎えての対談

TOFセンサー非搭載端末での荷物サイズの3辺計測技術の提供を開始

NRIとNRIデジタルは、AIとクラウドテクノロジーを組み合わせたソフトウェア部品群「DiPcore(ディップコア)」シリーズの計測ソリューションとして、TOF※センサーを搭載していない端末でも高精度な3辺(縦・横・高さ)計測を可能とする技術を新たに開発しました。この技術を活用することにより、比較的安価な端末での3辺計測が可能となり、物流事業者だけではなく、エンドユーザの利用も広がることが期待され、業務プロセスの簡略化が期待できます。

NRIグループは今後もお客様に最適なAIモデルを構築し、物流業務コストの劇的な削減を支援していきます。

※TOF(Time Of Flight):対象物に光を照射し、その反射光をセンサーで捉え、距離や方向を測定する技術



鶴岡工業高等専門学校と「デジタル時代における人材育成と地域貢献」に関する協定を締結



NRIは、独立行政法人国立高等専門学校機構 鶴岡工業高等専門学校(山形県鶴岡市)とデジタル時代の人材育成と地域発展への貢献を推進するための連携活動に係る「人材育成、地域貢献に関する協定」を2023年9月21日に締結しました。

NRIは2019年10月にデジタル時代における新たな地方創生に向けた取組みを発表し、「ローカルハブ」としてのポテンシャルを有する鶴岡市との間で、連携活動に係る基本合意書を同年12月に締結しました。今回の協定は、2019年に締結した協定を引き継ぎながら、NRIが有するDXやコンサルティングの強みを活かした人材育成について、より積極的な連携・支援を試みようとするものです。

NRIは、地域開発・産業開発に関するノウハウや実績、及びデジタル技術とその活用に関する豊富な実績をもとに、広く地域の発展や社会課題の解決に寄与していきます。

NRIみらい、障害者雇用に関する優良な中小事業主として厚生労働大臣より「もにす認定」を受ける



NRIグループで障がい者雇用を推進しているNRIみらい株式会社(以下、NRIみらい)は、2023年9月、厚生労働大臣から「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度(もにす認定制度)」の認定を受けました。

NRIみらいは、体制づくり・仕事づくり・環境づくりといった様々な面において総合的に高い評価を得た結果、この度の認定に至りました。

今後も障がい者の雇用実現と、障がい者が生き生きと働き自立できる職域・業務の開拓を推進していきます。

2023年4月に発表した長期経営ビジョン(NRI Group Vision 2030)では、サステナビリティの考え方をマテリアリティとして成長戦略に組み込みました。今回、8つのマテリアリティの中から価値を生み出す資本に位置付く「人的資本の拡充」、及び経営基盤に位置付く「地球環境への貢献」及び「社会的責任の遂行」の取組みについてご紹介します。



NRIのマテリアリティ
<https://www.nri.com/jp/sustainability>

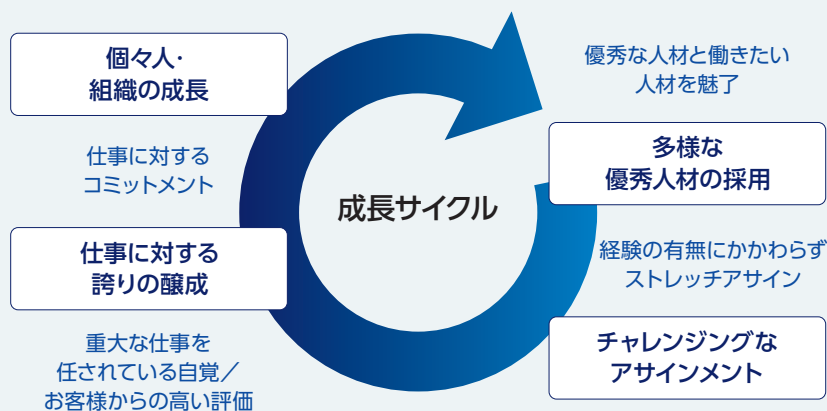


人的資本の拡充

NRIグループの強みは「人」、すなわち、高度な専門性を持ち、自ら設定した目標のもとに自立して働き、変革を恐れずに挑戦するプロフェッショナルな社員です。このような人材を育むために、志の高い社員の能力を引き出しながら、現場で成果につなげていくための仕組みや環境づくりを進め、継続的な人的資本の成長サイクルを作りだしています。

近年は新卒採用に加え、キャリア(中途)採用についても強化しており、様々な業界から参画した社員が専門性を活かして活躍しています。

人的資本の成長サイクル



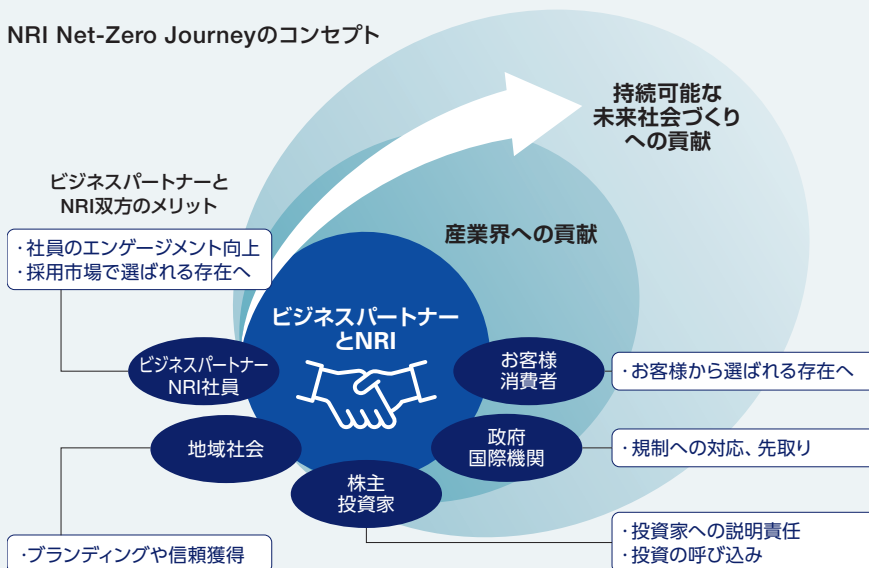
環境・社会への取組み

NRIグループでは、「ビジネスパートナーとの協働による地球環境への貢献」をマテリアリティの一つに位置付け、自然資本へ配慮するとともに持続可能な地球環境づくりへ貢献する取組みを推進しています。

温室効果ガス排出量削減への取組み

NRIグループでは、2050年度に温室効果ガス排出量をネットゼロとする目標を掲げています。目標達成に向けてビジネスパートナーと一緒に歩み、共にビジネスの成長と持続可能な未来社会づくりを目指す取組み「NRI Net-Zero Journey」を進めています。NRIは「持続可能な未来社会づくりへの貢献」というゴールに向けて、ビジネスパートナーとのパートナーシップを大切にしながら共に成長していきたいと考えています。

NRI Net-Zero Journeyのコンセプト





専門組織の強みを活かし、日本全体のセキュリティレベルの底上げを目指す

NRIセキュアテクノロジーズ
コンサルティング事業統括本部長 | 山口 雅史

NRIセキュアテクノロジーズは総勢600人を超えるセキュリティ専門組織です。私はそこで主に3つの業務を担当しています。1つめは、お客様のセキュリティの課題に対して、コンサルティングからソリューションまでを提供する部署のマネジメント。2つめは、セキュリティコンサルティング事業全体の総括。3つめは、世の中のセキュリティ意識を高めるため、サイバーセキュリティ全般の情報発信を行っています。

北米や欧州は、日本よりもセキュリティ対策が進んでいると感じます。また、セキュリティに対する脅威は日々進化していますが、その対応はどうしても後追いになりがちです。私が目指したいのは、世の中からセキュリティ事故がなくなり、人々が安全・安心に暮らすことができる社会です。そのためには、海外の最先端の動きを察知しながら、日本のお客様に適した対策を速やかに展開することが重要であり、それはNRIセキュアテクノロジーズが価値を発揮できる部分です。これまで蓄積したノウハウや独自のソリューションを活かし、お客様と共に日本全体のセキュリティレベルの底上げを図りながら、日本全体のセキュリティ推進に取り組んでいきたいと思えます。

 NRI People
<https://www.nri.com/jp/people/pickup/yamaguchi>



NRI PROFESSIONAL

NRIプロフェッショナル



サステナビリティの推進でNRIグループの持続的成長を実現する

NRI サステナビリティ推進部長 | 伊吹 英子

サステナビリティは不確実性が高まる経営環境の中で企業が持続的成長を実現するために必須の取組みテーマです。私は長年、この分野に対するコンサルティング業務に従事し、現在はNRIグループ自身のサステナビリティを推進しています。

サステナビリティとは、“長期志向”を取り入れ“経済価値と社会価値の両立”を目指す経営のことで、これにより企業の持続的成長を実現します。気候変動や生物多様性、人権対応への要請が一層高まり、サステナビリティは経営の重要課題となっています。近年では、サステナビリティの考え方を自社の「パーパス^{*}」に組み込み、経営の根幹に据える企業も増えています。

NRIグループでは、長期経営ビジョンV2030の策定にあたって、サステナビリティ基本方針(マテリアリティ)を新たに成長戦略に組み入れました。NRIグループはこれまでも、データセンターでの再生可能エネルギー利用や、ガバナンスの強化などに積極的に取り組んできました。今後はこの取組みをさらに深化させ、ステークホルダーの皆様からの信頼の一層の向上に貢献するとともに、エンゲージメントを通じて、ESG全体の取組みを強化してまいります。

※パーパス(Purpose): 企業や組織の、社会における存在意義のこと

 NRI People
<https://www.nri.com/jp/people/lst/con/ibuki>



統合レポート2023のご紹介



NRIの事業活動を包括的に記載した「統合レポート2023」を発行しました。

「統合レポート2023」では、2024年3月期からスタートしたNRI Group Vision2030(V2030)や中期経営計画(2023-2025)、新たに特定し、V2030に組み込まれたマテリアリティについて具体的に解説しています。



統合レポート2023

<https://ir.nri.com/jp/ir/library/report.html>



「ディスクロージャー優良企業」を2部門で受賞



2023年10月、NRIは公益社団法人日本証券アナリスト協会より、情報開示のさらなる進展のための模範となる企業として、ITサービス・ソフトウェア部門及び個人投資家向け情報提供部門における「ディスクロージャー優良企業」に選定されました。

今後もNRIは、投資家の皆様に対し、充実した情報を広く公平に開示するよう努めてまいります。

NRIオリジナルカレンダー配布取り止めのお知らせ

これまで毎年11月下旬に株主の皆様へ翌年のカレンダーをお届けしておりましたが、環境配慮の観点から本年より配付を取り止めることといたしました。NRIオリジナルカレンダーをご活用くださっていた株主様には大変申し訳ございませんが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(公告掲載URL https://pn.nri.com/) ただし、事故その他のやむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
配当受領株主 確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 及び特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵送先) (電話照会先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4307

株式会社野村総合研究所

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
TEL 03-5533-2111 <https://www.nri.com/jp/>



株式に関するお問い合わせ

- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取請求



口座を開設されている証券会社へ
お問い合わせください。

- 特別口座に関するご照会
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- その他株式事務に関する一般的なご照会



三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部へ
お問い合わせください。
電話照会先は左記をご参照ください。